

若手社員の気持ちは 離れるばかりです！

今年も駅への「還流」の指名が9名の運転士、車掌にありました。昨年もこの時期に同じく9名の職場の仲間が指名されていました。この「環流」は2005年に始まって既に7年目を迎えています。毎年、若手の社員が職場を後にし駅での勤務を強要されています。

会社は「駅異動」と言い方を変えて言いますが中身は何も変わっていません。運転士や車掌になってようやく自分の仕事も軌道に乗ってきた最中であり、また私生活では結婚し家族が増えて安定した生活が送れそうになってきた方が多くいます。

こうした個人々の生活状況や希望を聞く耳もなく、一方的に乗務員から駅勤務を命るやり方るやり方は、誰が見てもおかしいと感じられますし、私たちは労働組合として怒りを感じています。

多くの社員が悩んでいます！

一方的な命令によって、環境になじめずに悩んでいる社員が多くいます。その結果、病気や退職に至ってしまうケースが発生しているのも事実です。私たちはこうした、「命令と服従」を現したこの「駅環流」に対して反対の声を上げています。当該の「ユニオン」組合役員は職場で何か声を上げているのでしょうか。

社員の気持ちを重視しない会社のやり方では、乗務員として「安全」を守る仕事に就いている気持ちにも緩みが出て、事故やミスを招く原因になります。鉄道を利用する乗客の生命と安全を守るためには働きやすい職場環境でなければなりません。

今回も恐らく現場長の判断と通知があったかと思いますが、5年経って戻った頃には今の現場長はおらず、どこかにご栄転？となっているのでしょうか。現在の現場長が当該社員に責任持って通知しているとは到底感じられません。社員を将棋の駒のように扱うやり方はおかしいやり方です。

私たちはこのような、社員の希望を無視するやり方には断固、反対です。